# 長崎県立長崎鶴洋高等学校　平成23年度　学校評価表

※評価基準
各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。（総合評価は各学期の平均《小数第1位を四捨五入》を記入）
4:十分達成できている　　3:おおむね達成できている　　2:どちらかというと達成できていない　　1:ほとんど達成できていない。

1　学校経営　　全職員が共通の理念に立った学校経営に対する教育成果の評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| ①基本的生活習慣の確立 | 規律正しい生活習慣を身につけさせ、目的意識を持って学校生活を送るよう指導を行う。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 生徒指導部が細やかに対応しているにもかかわらず、生徒の問題が絶えなかった。<br>欠席・遅刻・早退が多すぎる。 |
| | 端正な身なり、節度ある言動など、生徒指導面の指導を徹底し、基本的なマナーの確立に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 遅刻・欠席の少ない、生き生きとした学校生活の実現に努める。 | 3 | 2 | 3 | 3 | |
| | 明るく元気な挨拶が飛び交う学校にする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ②生徒一人ひとりを大切にする教育の実践 | より多くの生徒への声かけをしながら信頼関係を築き、個に応じた学習指導、進路指導を行う。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 学年を含め、教員間の連携を密にして、生徒の状況に関する共通理解に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒・教員間の信頼関係を構築し、心に響く教育の実践に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒には、いかなる場合も丁寧な対応に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ③学力の向上と進路指導の充実 | 基礎学力の向上を図るとともに、進路希望に合う職業資格取得のための指導を充実する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 課題の与え方に工夫が必要。<br>定期考査で平均70点というのは設定が高すぎる。<br>模試は偏差値を50以上を目指すのが良い。<br>検定は今のままで良い。 |
| | 家庭学習の習慣を確立させ、主体的に学習する姿勢を育てる。 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | 明確な目的意識を持たせることにより、授業を充実させ、基礎学力の定着に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒の向上心を刺激し、定期試験・模試・検定試験など、全てに70%以上の得点を目指させる。 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| ④健康な体とタフな心の育成 | 部活動への積極的な参加を促し、目標実現に向け精力的に活動する生徒を育成する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等への積極的な取り組みを促す。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 学年・分掌・教科間の連携を密にし、学校不適応生徒の発見と支援に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 規則正しい生活のリズムを奨励し、教職員も生徒の規範となるように心がける。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑤教育環境の整備と美化意識の高揚 | 生徒、職員が清掃活動に積極的に取り組み、明るい雰囲気の学校づくりを目指す。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 私物の整理の徹底をはかる。 |
| | 毎日の清掃活動の指導を徹底する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒と教職員が一体となって、教育環境の整備に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 私物の整理整頓と掃除を徹底させ、掃除は、特にトイレと階段を入念に行う。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑥学校・保護者・地域等が一体となった教育活動の展開 | 定期的な三者面談や面接指導への保護者参加によって、生徒の進路希望に沿った教育活動を展開する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 広報活動を充実させ、本校教育活動への理解に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 地域の人への挨拶を積極的に行う。また、学校行事への参加を奨励する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 健全な生徒の育成のために、PTAや同窓会との連携に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑦広報活動の徹底 | 学校便りやHPを通して、教育活動の広報に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 中学校への長崎鶴洋高校の周知を図るために、積極的な広報活動を展開する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | HPを常時更新したり、地域の広報誌等にも情報提供を心がける。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |

2　学年経営　　学年経営全般における計画的・組織的な教育成果の評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| ①1学年 | 基本的生活習慣を確立させ、思いやりのある心を育成する。 | 4 | 3 | 3 | 3 | いじめが起こってしまった。 |
| | 基礎学力の向上を目指す。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | 生徒の希望進路に応じた類型（水産科）及び科目（水産科、総合学科）を選択させる。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| ②2学年 | 服装・頭髪違反生徒の指導を充実させ、端正な身なりで学校生活を送らせる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 容儀指導について、全生徒への理解徹底が必要。 |
| | 集団行動を意識させ、自己中心的な行為をさせない。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 家庭学習の習慣を確立し、学力を向上させる。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| ③3学年 | 関係分掌との連携をはかり、進路指導、生活指導の充実に努める。 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| | 生徒の能力や適性に応じた進路選択を支援するため、情報の提供と面談の充実に努める。 | 3 | 3 | 4 | 3 | |
| | 進路目標実現のために必要十分な学力とともに、社会の一員としてのマナーを身につけさせる。 | 3 | 2 | 3 | 3 | |

3　校務分掌　　各校務分掌の教育活動全般における計画的･組織的な教育的成果の評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| ①教務部 | 水産科の類型及び総合学科の系列について再検討する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 履修と修得の理解を徹底し、学習する動機を高める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 長崎鶴洋高校独自の学校設定教科・科目及び選択科目の設定を行う。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | 生徒の多様な進路に対応した教育課程の編成を目指す。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | 保護者の学校行事への参加を促す。 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| | 学校便りを年6回発行し、中学校や学校近辺の自治会に配布する。 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| | 広報用ポスターを作成し、学校近辺の中学校へ展示する。 | | 4 | | 4 | |
| | 地区別学校説明会の実施場所、時期と内容を検討し、昨年度以上の参加者増を目指す。 | | 4 | | 4 | |
| ②生徒指導部 | 授業開始時刻を守らせる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 服装頭髪指導を徹底する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 特別指導（事後指導）を充実させる。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| | 地域等からの苦情等へは、柔軟に対応する。 | 4 | 3 | 3 | 3 | |
| | 登下校指導と校内外の巡視を強化する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 教職員間の共通理解に努める。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| ③進学指導部 | 進学指導について全職員の共通理解を深め、特に1・2年次の「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」における進学指導の充実に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 各教科との連携を密にして、進路に応じた教科指導の在り方を研究し、あわせて基礎学力の向上を目指す。模擬試験を実施するだけではなく、事前・事後指導の充実に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 自己実現を念頭に置いた学力向上の重要性を生徒に認識させ、安易な進路選択に陥らないための指導を試みる。 | 4 | 3 | 3 | 3 | |
| | 進路情報の提供を通して、生徒の自己理解と進路に対する関心を高めさせ、主体的な進路設計や選択する力を育成する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 受験指導は、3学年団との連携を密にして早期に開始できる体制をとる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 進学希望者の希望校全員合格を目標にする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ④就職指導部 | 生徒一人一人の情報を共有し、早めの意識づけと就職活動に取り組ませる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 就職希望者の進路先をほぼ実現できた。<br>進路先未定の生徒に引き続き支援を続ける。 |
| | 生徒、保護者、企業との連携を図り、就職に関わる情報交換を密にする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 「進路ノート」を3年間通じて活用させ、進路実現に向けて段階的に就職活動の支援を続ける。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒の就職内定率90％以上を目指す。 | | | | | |
| ⑤生徒会指導部 | 生徒会活動及び学校行事をとおして、生徒の自主精神を高める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 部活動の活性化とPRを図るため、生徒会と部活動顧問・担任との連携に努める。部活動の結果は、逐次HPに掲載する。 | 3 | 2 | 3 | 3 | |
| | 各分掌と協力して委員会活動を行う。1学期に1回は委員会活動を行い、各クラスの専門部を行動させる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 地域社会に貢献するボランティア活動や地域の行事に積極的に参加させる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑥相談部 | カウンセラー便りを毎月1回以上発行し、生徒や保護者に対して情報を提供する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | スクールカウンセラーの来校日と相談時間を公開することで、生徒・保護者・教職員が相談しやすい環境を作る。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | 毎月欠席5日以上、遅刻3回以上、保健室利用3回以上の生徒に対して、担任と相談のうえ、面談等の措置をとる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 各種検査や悩みの調査を実施して、その分析結果を担任に伝え、生徒理解のための情報を提供する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 支援の必要な生徒に関する情報交換を、担任や生徒指導部と綿密にすることにより、不適応の早期発見と支援に努める。 | 4 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑦保健美化部 | 保健便りを月1回発行し、生徒・保護者に感染症防止を含めた健康増進を啓発する。 | 4 | 4 | 3 | 3 | |
| | 日々の掃除活動を徹底させる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 分別収集を習慣づけさせる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 大掃除は全員で取り組み、更衣をして行わせる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒指導等、他の分掌の連携に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 校内施設安全点検を年2回実施し、危険箇所をチェックする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 1学期 | 評価 2学期 | 評価 3学期 | 評価 総合評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑧図書部 | 「長崎鶴洋高校推薦図書百選」を生徒・保護者に呼びかけて選定し、学力向上に役立てる。 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | 図書館広報誌を通して、家庭での読書を推奨し、家庭学習の習慣化にもつなげる。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒の興味・関心・希望を考慮した図書を選書し購入する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑨研修部 | 教職員の教育に関する技術や指導力の向上を目指し、校内外の研修の案内と円滑な実施に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | かけがえのない自他の生命を尊重する心の育成を目指し、人権同和教育や平和学習など生徒に対する指導を計画的に行う。 | | 3 | 3 | 3 | |
| | 1・2学期末に生徒の「授業に関するアンケート」を実施し、生徒、教職員ともに授業の改善に役立つものとする。 | 3 | 3 | | 3 | |
| ⑩情報処理部 | ホームページの更新により、学校の様子を随時公開する。 | 4 | 3 | 3 | 3 | |
| | NEWS（県立学校校務事務支援システム）への円滑な移行に努める。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| | 情報セキュリティの徹底を行う。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | ハードウエア及びソフトウエアの充実と校内LANの保守を行う。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑪キャリア教育部 | 1年生では、自己理解、産業・職業理解にもとづく、将来のキャリア設計を描かせ、適切な類型選択・科目選択を支援する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 総合学科の自己開発では、3年間の指導体系をつくる必要がある。 |
| | 2年生では、体験的な活動等により社会の仕組みや産業・職業への理解を深め、自己の適性や能力に気づかせ、望ましい勤労観・職業観を育てる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 3年生では,各個人・グループが設定した課題に基づく探求的な学習活動により、自己の在り方や生き方を考察させる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 水産科・総合学科全学年による生徒総合発表会を3学期に実施し、表現・発表力を養う。 | | | 3 | 3 | |
| ⑫実習船部 | 乗船教育における訓練記録簿の効率的な活用に努める。 | 3 | 3 | | 3 | 海友丸では乗船中の問題行動の発生や航海計画の予定変更等が起こった。今後は、事前指導の徹底、実習船指導教官との連携・情報交換を密にした指導が必要である。 |
| | 乗船中の生徒に関する情報交換を密にする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 事前指導を徹底し、乗船中の事故や問題行動をゼロにする。 | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| | 教育効果を高めるため、実習船における寄港地活動を充実させる。 | 3 | 3 | | 3 | |
| ⑬臨海実習場部 | 水産教育の実践的教育の場として、種苗生産・養殖技術を習得できる授業を展開する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 地域との連携を緊密にし、多くの人が「水産」について学べる教育施設とする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 水産生物の飼育・管理を充実し、地域の水産業へ貢献する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| ⑭寮務部 | 日課を守ることで、基本的生活習慣を身につけた寮生を育成する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 団体生活を意識させ、他人に迷惑となるような行為をしない寮生を育成する。 | 2 | 2 | 2 | 2 | |

4　道徳教育　　各分掌、学年、教科における道徳教育の成果の評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| 道徳教育 | 学校行事やボランティア活動への積極的な参加を促し、他に協力することや人を思いやることの大切さを学ばせる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 具体的な目標設定が必要。 |
| | 夢を持ち、その実現に向けて積極的に学校生活を送る生徒を育てる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 規範意識を身につけ、良識ある行動ができる生徒を育てる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 毎月一人一冊以上の読書を目標とし、読書活動の活発化に努める。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 志を高く持ち、その実現のために努力する生徒を育てる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |

5　開かれた学校　　保護者や地域等との連携における教育的成果の評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | | | | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 総合評価 | |
| 開かれた学校づくり | PTA総会や地域開放講座などを利用し、保護者、地域住民向けの行事を企画する。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 本校のスクールカウンセリングシステムはよく機能した。 |
| | 学校便りを発行し、保護者のみならず、町内など近隣の自治会などにも配る。 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 子育てについて保護者がスクールカウンセラーに相談できる機会を計画的に設け、保護者に案内する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | |

＜学校評価表作成要領＞
① 1　学校経営については、学校長が評価項目を定め、各評価項目について具体的目標を挙げる。
② 2　学年経営、3　校務分掌については、各学年・分掌で検討し、H23努力目標（校長作成）に基づいて具体的目標をそれぞれ挙げる。
　なお、具体的目標の設定にあたっては、具体的な数値目標を掲げる。
③ 4　道徳教育については、H23道徳教育全体計画に基づく道徳教育の重点目標を挙げる。
④ 5　開かれた学校については、校長が具体的目標を挙げる。
⑤ 具体的目標の原案については、運営委員会・職員会議において、H23努力目標にきちんと基づいているかを検討する。
⑥ 具体的目標の評価は各学期末、総合評価は年度末に行う。また、評価項目全体における成果と課題は、年度末に記入する。
⑦ 保護者へのアンケートを年度末に実施する。

【総評】

| | |
|---|---|
| 評価の結果<br>（課題と問題点） | 学力向上対策が喫緊の問題である。図書館の充実も学力向上に必要な要素であろう。また、校内や寄宿舎、乗船実習中に、それぞれ問題行動が起こった。生徒の規範意識をいかに育てるかも対策が急がれる。 |
| 来年度の改善策 | 各項目の課題にもあがっているが、教員側の具体的な行動が必要である。特に、学力向上対策では主担当の決定に時間を費やし、実現までには至っていない。学校全体の取り組みとして、具体的な計画と検証を行う分掌をはっきりとさせる。 |